

くらしを運ぶ！ はたらくトラックフェスタ 2026



TORIUS to BIZ Event Report vol.21



「楽しい!」から始まる、トラックを知る一日



10月3日土曜日、トリアスWESTゾーンで「くらしを運ぶ!はたらくトラックフェスタ2026」が開催されました。会場には、たくさんのトラックが並び、家族連れの姿も多く見られました。ステージやさまざまなブースには多くの人が集まり、会場は朝からにぎわっています。

福岡県トラック協会のイベントは、トラックの展示だけではなく。ステージでは、粕屋東中学校 吹奏楽部の演奏やS-TRIBEによるキッズダンス、「福を架ける少女」のライブ、大人気キャラクターショーなどが行われました。また会場では、今回初めて企画された「トラック綱引き」や「うどんMAP博」、全長4メートルの恐竜グリーティング、子どもたちが大型トラックに乗って記念撮影ができるコーナー、JAFの子ども免許証、献血バスなど、会場のあちこちでさまざまな催しが行われていました。



福を架ける少女



トラックを見て、乗って、楽しむ。ステージを見たり、家族で企画に参加したり。福岡県トラック協会は、なぜ「楽しめるイベント」をつくっているのでしょうか。福岡県トラック協会の広報委員長、木村さんに、イベントに込めた思いを伺いました。

「まずはイベントを楽しみに来ていただいて、その先で、普段はあまり意識することのないトラックの仕事や、物流について知ってもらい、トラックについて興味を持って頂ければと思います。物が届くという当たり前のことが、実は当たり前ではありません。我々の仕事は、皆さんの生活や日本の経済にとって、絶対に必要な仕事だと思っています。」



楽しんでもらうことを入口に、その先でトラックの仕事を知ってもらう。今回のフェスタには、そんな思いが込められていました。

■「当たり前のことが、当たり前じゃない」

その思いは、イベントの途中に行われた福岡県トラック協会のPRタイムでも語られていました。トラックに設けられたステージから来場者に向けて、トラックの仕事についての話が届けられると、会場では多くの方が足を止め、耳を傾けていました。



「365日、24時間走り続けていくことで皆さんの手元に品物が届く」

私たちは、必要なものが店頭に並び、注文したものが届くことを、普段あまり意識せずに過ごしています。そんな日々を支えているのが、毎日走り続けるトラックです。

■なぜ、トリアスだったのか

今回の開催地となったトリアスについても、福岡県トラック協会の木村広報委員長に伺いました。

「これまで北九州地区で開催してきましたが、開催地を一つの地域に集中させるのではなく、今回は福岡方面でも開催したいという考えがありました。一方で、トリアスは公共交通機関がバス中心となるため、イベントを開催して本当に人が集まるのか、という不安もありました。」

そこで、開催前にトリアス周辺の状況を調査し、平日でも多くの人が訪れていること、土曜日・日曜日には駐車場が混雑するほど来場者が多いことなどを確認したうえで、「絶対ここでやろう」と開催地を決めたといいます。そして実際に開催してみると、「予想以上に大変盛況で嬉しいです」というほどのにぎわいとなりました。

会場の入り口付近では、「何かやっているから行ってみよう」と足を止め、そのまま会場に入っていく人の姿もたくさん見かけました。これは、イベントそのものの魅力に加えて、普段から多くの人が行き交うトリアスだからこそ生まれた光景だったのかもしれません。ガラポン抽選を楽しんでいた親子に帰り際に声をかけると、「楽しかった」と答えてくれました。



■楽しい一日の、その先に

楽しい時間の中で、いつもなら何気なく見ているトラックのことを、少し違った角度から知る。帰り道、トラックを見かけました。行きがけにもたくさん見ていたはずなのに、少し違って見えました。